

海自特務艇「はしだて」初入港 田子の浦ポートフェスタで公開

自衛隊静岡地方協力本部富士地域事務所（所長・本間亮3等陸尉）は11月20日（日）、富士市田子の浦港で開催された「田子の浦ポートフェスタ2022」で広報活動を行った。

このイベントは富士市産業政策課港湾振興室が主催し、港の仕事などを広く知ってもらうとともに海に関わる仕事の魅力などを伝えるもの。

海上自衛隊の特務艇「はしだて」が同港に初入港したほか、海上保安庁の巡視船「おきつ」、帆船「みらいへー」オーシャンプリンセス、水陸両用「KABAバス」が寄港し、船内公開やショートクルーズなどが行われた。

「はしだて」は国内外の来賓をもてなす迎賓艇で、災害時の医療支援や救難機能も備えている。当日は富士市ミスかぐや姫が一日艇長に任命され、「自衛隊をPRできるよう頑張ります」と話し、海上自衛隊の制服を着用して来場者を出迎えたり、艇内での記念撮影を行った。

一般公開には1939人が訪れ、板張りの甲板や豪華な内装を見学した。来場者は「自衛隊の船にもいろいろな役割があることを知った」「護衛艦と見た目が全然違った。船内もきれいだった」と楽しそうに話していた。

また、静岡地本は岸壁に広報ブースを設置し、子ども用迷彩服の試着体験や陸上自衛隊車両との記念撮影、活動紹介パネルの展示、自衛官採用制度説明などを行った。ブースは多くの家族連れで賑わい、船と車両を同時に楽しめるイベントを満喫していた。

富士所は、今後も自衛隊の魅力積極的に発信し、親しみを持ってもらえるような広報活動に努めていく。



富士所広報ブース



一日艇長との記念撮影

富士市立吉原第一中学校で職業講話

自衛隊静岡地方協力本部富士地域事務所（所長・本間亮3等陸尉）は11月24日（木）、富士市立第一中学校で職業講話を実施した。

これは、「生徒が社会を知り、働くことの意義や自身の将来を考える機会」として同校が計画し、富士所に講話の依頼があり実施したもの。

当日は自衛隊のほか、警察・弁護士・スポーツインストラクター・美容師など10種類の職業の講師が派遣され、自衛隊の講話には2年生34人が参加した。

講話では本間所長が、自衛隊の任務や職種について説明し、自身が自衛隊を選んだきっかけ、仕事の魅力や楽しさ、やりがいを感じた体験談などについてスライドを交えながら紹介した。

質疑応答では「筋トレはいつやっていますか」「給料はどれくらいですか」「陸海空どれが一番かっこいいですか」など中学生らしい率直な質問が多く寄せられ、大盛り上がりとなった。

生徒からは「自衛隊には多くの仕事があること、協力と助け合いが大切であることを学びました」「講話を聞いて、自衛隊の堅苦しい・きついというイメージが変わりました。女性も多く活躍しているので興味が増えました」との感想があり、帰り際には生徒から「次に会うときは、僕が自衛官になったときです」と嬉しい言葉をもらうことができた。

富士所は、今後も各学校と連携して講話などを行い、自衛隊の認知度向上、イメージアップを図っていく。

